

第10期 「生涯学習分科会 議論の整理(案)について」意見の提出

菊川律子 2020/7/31

会議に出席できなくて申し訳ありませんが、原案を一読し気づいた事柄について、ページに従い次の通り提出します。

◎P1 タイトルの副題ですが、「ウィズコロナ・ポストコロナ時代」という表現は、「ウィズコロナ・ポストコロナ時代の学校教育」等、審議会等において今後使われていく一般的な用語なのか、確認したほうが良いように思います。

◎P2 5つ目の○ですが、今回の学校臨時休業期間に、社会教育施設等において子供への学習支援や地域学校協働活動などが行われたところは一部にとどまっていたのではないかと推測します。事例のカタリバオンライン等は少数で、むしろ公民館や図書館、博物館等は閉鎖せざるをえず、地域の生涯学習活動は停滞していたのが実態ではないでしょうか。面としての取り組みはどうだったのか、実態把握の上での記載が現状も含め求められているのではないかと考えます。

◎P5 「(2)人生100年時代の到来」に関連し、マルチステージ、健康寿命、移行、キャリアチェンジ、複数キャリア等について述べられていますが、生涯学習を考える視点として「高齢期も含めた発達」という視点は必要ではないでしょうか。健康寿命を延ばす根底には、高齢者も含め生涯を通じての発達を促す教育的働きかけや条件整備、そのためのエビデンスとなる研究が求められているように思います。

人生100年時代を全うするには、「心豊かに対応できる」ということを超える、学習や教育に基づく、成長・自己実現としての発達が不可分であるという個人からの視点も大切ではないかと考えます。

◎P7~8 P14 インターネットが生きていくための「命綱」であることを踏まえ、記載されているように、一部の高齢者等 ICT 機器を苦手とする者に対する学習や支援は取り組むべき必須の課題だと考えます。

◎P14～15 社会教育士について、新たに受講することや活動事例の紹介とともに、既に社会教育主事資格を取得している社会教育主事経験者についても社会教育士になるための講習受講や認証手続きについて触れていただくと、誤解を与えず、社会教育経験者の地域参加や学校での活躍を促進できるのではないかと考えます。